

△ 事務局だより

△去る六月十八日、在仙の会員二十名余りが集つて、秋の大会のことを中心に話しあいました。とにかく十年目だというので、にぎにぎじくも味のある大会にしたいものだということで、真剣に意見をかわしました。

中村先生や木下先生の玉稿は、その間の空氣をふまえたものです。御熟読を願いたいと存じます。

△そのとき、秋の大会は日本社会学会大会の

前にやりたいといでので、十月三十一日と十一月一日の両日に、東北大学の農学研究所講堂と仙台郊外の作並温泉河合ホテルで開くことに決めました。三十一日（オーワーク）は東北大學農学研究所で研究発表を行ない、夕方それをすませて、バスで河合ホテルに帰りこんで懇親の夜をもち、翌十一月一日（オーワーク）はそのホテルの大広間で共同討議をもちたいと思つています。まさに秋はたけなわ、紅葉のころです。仙台のわれわれでさえ、秋の作並温泉行きを楽しみにしています。

△ところで、秋の大会の共通課題ですが、すでに、打合せ会出席の方々の玉稿に知られるように、余りぎすぎましたことにせず、あえていえは、農民組織の存在形態ぐらいのことろで、ムラについて語りあいたいと存じます。

右のことについては、御意見も多いかと考えます。その御意見は、是非作並温泉でゆつくりうけたまわりたいと思います。そんなところから話しあつてることも、今の村研には必要なことだと信じています。

△在仙の会員は、どうしても一人でも多く秋の大会に出席していただき、どしどし御意見をおのべ下さることが大切だと確信し、そのことを切願しています。

△ いつものことで恐れ入りますが、会費をまた身辺の移動などを、事務局までおよせ下さい。